

日本のスイッチを入れる

神谷宗幣著



平成の“龍馬”たちよ その手で未来を拓け

カナリア書房・1260円

「未来は、自分たちの手で変えられる！」と、本書の副題は謳う。それが嘘でも誇張でもないことは、本書で紹介される著者の生き様をみれば明らかだろう。ゼロからスタートして若手地方議員の全国組織「龍馬プロジェクト」を立ち上げ、3年足らずで大きな政治勢力に発展させた。そのパワーはどこからくるのかー。「行動こそが本音」という著者に、未来を切り拓く『スイッチ』の入れ方を聞いた。

——まずは本書に繰り返し出でてくる「心のスイッチ」について教えてください
神谷 ひと言でいえば、日本人としての自覚と気概です。自分は日本人であり、先人たちが築き上げてくれた日本という国に守られて生きている。そのことに感謝するとともに、今度は自分が社会に役立つ行動をしようという、意識の切り替えが「心のスイッチ」です。
——今の日本人には、そのスイッチが入っていない?
神谷 個人の自由や権利を過度に刷り込んできた戦後教育の弊害でしょうが、自分の損得勘定だけで動く人が多いような気がします。だから嫌なことやつらいことから逃げようとする。自分のためだけに生きているから、楽な方へ、楽な方へと動くのです。これでは国民一人一人が本来の力を出すことはできません。

やる気を引き出すスイッチが入ってないからです。しかし、かつて明治維新を成し遂げた日本には底力があります。多くの人たちが心のスイッチを「ON」にすれば、その人の生き方に弾みがつくだけでなく、日本全体が活気づくでしょう。

——神谷さん自身のスイッチがONになつたのはいつですか？

神谷 大学生のときです。それまでの私は、まさに自分のことしか考へない人間でした。しかし、カナダで語学留学していた時に知り合った各国の若者たちが、祖国の未来について熱く語るのを見て衝撃を受けました。自分のことよりももっと大きなかな、国や社会に対して何かを成し遂げようとするパワーやバイタリティに、圧倒されたのです。日本人の友達からこんなパワーを感じることはありませんでしたから、すごいといたしました。心のスイッチが完全

競い合つたら、確実に負けてしまうと…。私のスイッチが半分入つたのは、このときです。
——もう半分は？
神谷 語学留学を終えてアメリカやヨーロッパを渡り歩き、アフリカまで行つたときのことです。ある町で物売りをしている小さな子供たちに囲まれました。まだ三歳くらいなのに、生きるために必死なのです。そこで、生きるために必死なのです。その日の夜、私は涙が止まりませんでした。日本で三歳の子供に物売りをさせたら、児童虐待で保護者が逮捕されるでしょう。でもそれは、日本が豊かだからです。そして日本が豊かなのは、先人たちおかげなのです。そのことに気づいた私は心から日本人に生まれてよかったですね。

——なるほど、それで政治家を目指すようになったのですね
神谷 はい。ただし最初から苦難の連続。もともとコネもカネもない上、実家のスーパー・マーケットが倒産して多額の借金まで背負つてしまつた…。将来結婚を約束していた女

先人に感謝でON！

性とも別れることになり、一時は政治家どころか「死にたい」と思ったほどです。もしも心のスイッチが入つていなかつたら、何もかも途中で投げ出していたでしょう。しかし、そんな自分を応援してくれる人たちがいる。その人たちを悲しませてはならないという思いが、土俵際で自分で支えていました。こうして試行錯誤の末、政治を志してから七年目に大阪府吹田市の市議会議員になつたのです。二十九歳の春でした。

日本未来にON！

——念願の政治家となつて、いよいよ本領発揮ですね。

神谷 いえいえ、当時の吹田市議会は共産党が最大会派で、私は保守系無所属の一人会派でしたから、まともな議論をさせてもらえない。有権者の関心も低く、いきなり壁にぶつかつた思いでしたね。そんなとき、松下政経塾一期生の林英臣先生

が主宰する政治塾に参加する機会があり、私は自信とやる気を取り戻しました。そこには、心のスイッチの入った仲間が何人もいたからです。この政治塾参加をきっかけに、私は成功体験を積み重ねていくようになりました。

——それが龍馬プロジェクトにつながっていくのですね。

神谷 そうです。閉塞感が漂う今の日本にも、心のスイッチの入った「龍馬」たちがあちこちにいます。しかし彼らがバラバラに活動していなければ、日本を変える大きな力にはなりません。まずは全国の「龍馬」たちを探し出してネットワーク化し、いざ鎌倉というとき、馳せ参じる態勢をつくつておく、それが龍馬プロジェクトです。三年前から活動をはじめ、今は全国の若手地方議員ら二百五十人が賛同するグループに発展しました。

——急成長した分、批判や中傷も

多かったのでは？

神谷ええ。とくに「集まって何をするつもりだ」という声が強かったです。私たちは政党をつくりたかったわけではないので共通政策はありませんが、分かりにくいという批判には答えなければならない。そこで目指すべき国家ビジョンを明らかにしようということになり、十項目の基本方針をまとめました。それが「国是十則」です。第一則に「元首である天皇と、祭祀を司る皇室を敬い、世界最古の皇統を守り続ける」と謳い、以下、新憲法の制定や国防軍の創設、感謝と絆の社会づくりなどを打ち出しています。本書でも詳しく紹介していますので、ぜひお読み下さい。

——「国是十則」によつて、日本のスイッチが入りますか？

神谷 入ります。日本は過去二千年にわたり、独立自尊の精神で世界に比類なき発展を遂げてきました。

ところが先の大戦に敗れ、占領軍の日本弱体化政策のせいで自立心が奪われてしまつた。つまりスイッチが切られてしまつたのです。再びONにするには、先人たちの努力に思いを馳せ、独立自尊の精神を取り戻さなければなりません。国是十則の目的一も、この一点にあります。

——今後の戦略は？

神谷 昨年末の総選挙に龍馬プロジェクトのメンバーから八人が出馬し、六人が当選しました。私も大阪

十三区（東大阪市）から自民公認で急きよ立候補することになり、落選したものの、有権者から大きな激励をいただきました。その過程で実感したのですが、日本には、国や社会のことを真剣に憂う人たちがまだまだ大勢います。彼らを中心にして「スイッチON」の輪を広げていくことが、日本の未来を変える鍵となるでしょう。龍馬プロジェクトはこれまで、若手議員を中心に人材を集めてきましたが、これからは民間の若手

経営者や技術者、一般サラリーマンにも輪を広げ、各界各層の「龍馬」を発掘していくつもりです。

——最後に教えてください。私たちが利己的な損得勘定を捨て、心のスイッチを入れるにはどうすればいいでしょうか？

神谷 五つの心構えが大切です。日本人としてのアイデンティティーに目覚めること。チャレンジ精神を持つこと。成功体験を持つこと。同じ想いの仲間を持つこと。そして、マスコミ情報に流されず、自分達の頭で考えて問題を捉えることです。心のスイッチが入り、自分の存在意義や社会的な生き甲斐を見出すようになると、より充実した生き方ができます。読者の皆さんにも、必ずスイッチがあります。多くの人がONにすれば、日本のスイッチが入ります。そのとき日本は、世界中の国々から必要とされ、尊敬される国家となることでしょう。



かみや・そうへい 昭和52(1977)年、福井県生まれ。関西大学卒業。高校教師を務めながら政治家を志し、関西大学法科大学院に進学して修了。平成19年、大阪府吹田市議会議員選挙に無所属で出馬し当選。22年に龍馬プロジェクトを立ち上げ、全国から同志を募る活動をスタートする。24年、衆議院議員選挙に自民党公認で出馬するも落選。龍馬プロジェクト全国会会長。予備自衛官。

BL
BOOK LESSON